

平成24年度第1回若葉区地域福祉計画推進協議会会議録

日 時：平成24年6月29日（金）

午後2時から午後3時40分

※その後各分科会へ

場 所：若葉保健福祉センター3階 大会議室

委員定数：29名、出席委員：24名

事務局：13名、傍聴人：0名

【1】次第

- 1 開会
- 2 若葉区長挨拶
- 3 委員紹介
- 5 会議の公開について
- 6 若葉区地域福祉計画推進協議会設置要綱の一部改正について
- 7 若葉区地域福祉活動支援事業について
- 8 議題（1）委員長・副委員長の選任について
（2）運営企画委員会及び分科会の設置について
（3）今年度の推進協活動の進め方について
 - ①昨年度までの取り組みについて
 - ②今年度の進め方について
 - ア) 分科会活動について
 - イ) スケジュールについて
- 9 その他
- 10 閉会

【2】議事の概要

- （1）委員長・副委員長の選任について

若葉保健福祉センター菊谷所長が仮委員長となり、設置要綱第5条第2項により、委員長1名、副委員長3名が互選された。

- （2）運営企画委員会及び分科会の設置について

委員長より運営企画委員会及び分科会設置について趣旨説明と名簿案を提示し承認を得た。

- （3）今年度の推進協活動の進め方について

①事務局より昨年度までの取り組みとして、「1 若葉区地域福祉計画について」、「2 策定体制」、「3 若葉区地域福祉計画推進協議会について」、「4 平成23年度推進協の取り組みについて」説明した。

②-ア大嶋委員長より「自治会分科会活動について」、武副委員長より「地区部会分科

会活動について」説明を行った。

②-イ事務局より今年度のスケジュールについて説明した。

9 その他

2つの分科会（自治会分科会、地区部会分科会）に分かれ、今年度の方向性について議論した。

【3】発言要旨

《議題1 委員長副委員長の選任について》

(仮委員長) 協議事項の(1)委員長・副委員長の選任についてであるが、これは本協議会設置要綱第5条第2項により委員長1名、副委員長3名を委員の中から選出することになっている。先ほどの要綱改正により副委員長を2名から3名としたが、昨年までは委員長に武委員、副委員長に大嶋委員と横山委員をお願いしていたところである。この件について、要綱上では委員の皆様によってご推薦していただくところであるが、昨年同様に事務局の案があり、そちらを提示させていただいて、お諮りさせていただく方法を取らせていただければと思うのだがいかがか。

一同異議なし

(事務局) 今配らせていただいた案をご覧いただきたい。委員長に大嶋委員を、昨年度委員長であった武委員には副委員長を、同じく横山委員には副委員長を今年度お願いしたい。先ほどの要綱改正により、副委員長を2名から3名に増員したということ、2つの分科会のバランスをとるということで、事務局では津田委員に副委員長をお願いしたいと考えている。この4名に委員長、副委員長をお願いしたい。事務局案について何かご意見等あればお願いしたい。

一同異議なし

(仮委員長) 異議がないので承認とさせていただく。以降の進行については新委員長である大嶋委員長をお願いしたい。

一席移動一

(大嶋委員長) 皆様方のご承認をいただき、委員長という大役を引き受けさせていただくことになった。2年前まで、桜木町内会会長を4年やり、その前は副会長を4年、延べ8年間自治会の委員に携わってきた。その間、市、区、県、警察等々行政機関との様々な折衝を通じて、それぞれの問題点、課題を体験させていただいた。疎遠社会といわれる中で自治会の運営がいかにか大変かということも肌身で体験した。そのような経験が若干でもこの推進協の中で生かすことができればと考えている。皆様のご協力とご指導を賜るようお願い申し上げ就任のあいさつに代えさせていただく。

- (事務局) 新たに就任いただいた津田副委員長より挨拶いただきたい。
- (津田副委員長) 昨年推進協議会の委員に就任したばかりではあるが、多少若返りという話があったので、引き受けさせていただいた。
- (事務局) これより、大嶋委員長に進行をお願いしたい。

《議題2 運営企画委員会及び分科会の設置について》

- (大嶋委員長) 初めての方もいると思うので、案内させていただく。当協議会は、数名の運営企画委員会を組織し、細かな協議検討をし、全体会議でお諮りするというスタイルをとっている。24年度もこのような形で進めたい。推進協の組織として、自治会分科会、地区部会分科会の2つの分科会があり、推進協の30名の方には2つに分かれてそれぞれ所属に分かれ、協議するという形式をとっている。
- なぜ2つに分かれるかということ、年4回の推進協議会で区内全てのセクターを取り上げることはできない。そこで、目的を絞り、末端まで計画を浸透させるには自治会の関係者に周知徹底していかなければいけない。まず自治会分科会を一つ設けた。もう一つは、自治会長を理事としている地区部会分科会を設けた。この2つの組織の普及をしたい。また併せて、運営企画委員の選任をしたい。

—資料配布（運営企画委員会名簿及び各分科会名簿）—

- (大嶋委員長) 事務局案を提示させていただいた。備考欄の黒丸は運営企画委員としてお願いしたい皆様である。この人選メンバーに質問・意見はあるか。ナンバー1～16までが地区部会分科会、ナンバー17～30までが自治会分科会である。それぞれ自分が所属する分科会に問題はないか。

特に意見なし

《議題3 今年度の推進協活動の進め方について》

- (大嶋委員長) 今年度24年度の推進協の進め方についてだが、初めて委員になられた方もいると思うので、昨年度までの取り組みについて事務局から説明いただきたい。
- (事務局) お手元にある、「若葉区地域福祉計画推進協議会昨年度までの取り組み」をご覧ください。1番、若葉区地域福祉計画について、2番、策定体制については、関連があるので一緒に説明させていただきたい。昨今の生活ニーズの多様化に伴い、公的な福祉サービスだけで解決することは難しく、これからは地域住民を中心とした、新たな「支え合い」「助け合い」による地域福祉の推進が求められている。当若葉区でも、平成18年3月に地域で暮らすすべての人が互いに支え合い助け合う仕組みをつくることを目指し、第1期若葉区地域福祉計画を策定した。その中では4つの区域に分け、身近な生活全般に係る課題を抽出して4地区フォーラム代表で構成した作業部会等で策定委員会を設け、策定した。地域福祉をより一層推進するため、第1期計画の骨子を継承するとともに、社会情勢の変化を反映し、「あなた

とわたしでつくる支え合う地域福祉の実現を目指して」を標語に、「第2期若葉区地域福祉計画」を策定した。若葉区地域福祉計画推進協議会についてであるが、地域福祉計画実践実例の紹介、パイロット事業等の先進事例の紹介、広報の発行を行い、委員全体で取り組みの成果を共有し、今後の課題と解決の意見交換を行い、第2期計画を策定した。最後に平成23年度推進協の取り組みについて説明させていただく。当推進協議会の中では、地域福祉計画の推進体制の確立が最重要課題であり、その中心的な担い手である自治会・地区部会について、平成23年度に各分科会を設け、重点的に支え合いの啓発・普及を図るために各会へ訪問し、現状把握と課題抽出等を行ってきた。多くの地域で支え合い活動の必要性を意識している・必要と感じているが取り組み方が分からないなどの課題が出てきた。今後更に現状把握に努め、取り組みたい。

(大嶋委員長) 今の経過報告について補足したい。第1期若葉区地域福祉計画についてはその通りであるが、計画はほとんどといってもよいくらい浸透していなかった。中身はともよいいものではあるが、普及方法がよくなかった。昨年度、区内の18町内自治会、社協地区部会13地区部会を訪問し、実情調査を行った。様々な問題点も見えてきた。福祉計画以上の活動を進めているところもあるが、そうでないところもあった。このような経緯も踏まえて、24年度は、これまでの延長戦だけではなくより深く推し進めていければと思う。その内容について質問等あればお願いしたい。

(大西委員) 地域福祉計画はこの冊子のことか。

(大嶋委員長) そうである。それでは、自治会分科会、地区部会分科会として今年度の進め方をお話ししたい。まず、私のほうから自治会分科会の進め方について説明したい。平成24年度推進協への引き継ぎ事項についてであるが、23年度の行動を踏まえて、以下3点の目標を定めた。①計画の浸透、②計画の仕組み1～5の取り組みを実施していこうという自治会を増やす、③活動拠点と財源の確保としたい。③活動拠点と財源の確保についてだが、社協地区部会の加入状況が地域によってばらつきがある。これをどの地区にいても全世帯から集められるようにする。平成24年度の自治会分科会の活動における計画の広報・啓発に関しては、ビジュアルソフトのまちづくり支援システムというものを若葉区で作った。これを使用し計画と併せて町丁別の高齢化率等の周知・PRをしていきたい。次に各自治会活動状況把握と支え合い活動の促進についてだが、若葉区には201の町内自治会がある。活動状況にばらつきがあるため、各自治会の状況を把握し、その地域に最適な支え合い活動を取り入れられないだろうかと考えてもらう。訪問自治会予定数を一応目安として50ヶ所と考えている。福祉は民生委員がやればよいと考えている方がいたり、訪問を快諾されない場合もあるが、推進協、福祉活動の状況などを掲載した年4回の福祉だよりの作成と併せて、先進的に活動している自治会の情報を区内一般に広報する。そのためには、情報を集めなければいけないので、訪問班、情報収集班、広報作成班の3班体制で行う予定である。同じような活動を行う地区部会分科会と自治会分科会ですみわけをどのようにしていくかが課題である。次に、地区部会分科会について武副委員長より説明していただく。

- (武副委員長) 最初、自分が地域福祉をやる時に何を言っているのかよくわからなかった。地域福祉を推進するというのは、高齢者福祉（高齢者見守り）と助け合いの2つがあって地域福祉が進んでいくのではないかと考えている。見守りは、向こう三軒両隣が最少単位で、次に自治会、地区部会と役割が違う。これらの活動はこれをやる、といった定義はなく、地域によってまったく別々のものである。典型的な例としては、田舎の向こう三軒両隣はうまく機能している。これがうまく機能していないため、地区部会は自治会、民生委員、老人会、ボランティアが属している。これのすみわけが非常に難しいところである。昨年、13地区部会を取り上げ、中身の分析をした。地域福祉の前に社協地区部会は現状としてどうなっているのか。今年度から始まる地区部会分科会をどのように進めていくかということであるが、エリアの大きさが違うため、縦と横の活動をうまくリンクさせないといけない。自治会とどう連携するかが大事である。自治会でやる内容と地区部会でやるべき内容が同じであってはいけない。高齢者見守りについても、新聞屋や郵便局とどう連携するかも非常に重要である。今年度は高齢者見守りについて具体化していきたい。うまく自治会分科会と両輪で活動していきたい。
- (大嶋委員長) 地区部会の説明をしていただいたが、初めて委員になられた方に話がわからなかったこともあると思う。私も5年になるが、まったくわからないうちに1年が過ぎた経緯がある。それではまずいので、わからないこと等あればどんどん質問していただきたい。
- (前島委員) 地区部会分科会についてだが、メンバーは千葉市社会福祉協議会地区部会のメンバーということであるが、社協の目的と分科会の目的を簡単に教えていただきたい。自治会は地域の地縁団体として、地域の活性化と横のつながりを大前提とするが、社協はそもそも何を目的としているのか。
- (武副委員長) 社協地区部会長に聞いてもよい返事はなかなかないと思う。地域によってそれぞれまちまちである。社協地区部会の仕事は、地域福祉をやること。高齢者見守り、高齢者助け合い、この2つに結びつく活動をすること。市社協、地区部会の考えが必ずしもフィッティングしていないところがある。区社協はよくやっているが、市社協の考え方が明示されていない。皆で支え合いを推進しようとしている。支え合いの中では、高齢者見守りと助け合いを進めていこうと考えている。
- (大嶋委員長) 社協で何か補足することはあるか。
- (事務局) 地区部会の役割は皆様に分かりづらいかもしれない。私は訪問した際に簡単に説明させていただくのだが、地域福祉はそれぞれの福祉課題をその住民で共有し、その課題の方策を考え、それに対して住民で予防・対応していくことである。これが地区部会の活動であると説明させていただいている。武副委員長からお話があった通り、それぞれ状況が違い、対応があるのだと考える。
- (大嶋委員長) 武副委員長、社協事務局より説明があったがよろしいか。
- (前島委員) 完全な理解は仕切れていないが、自分の立ち位置がわからないままで、そのまま1～2年が過ぎ会長を辞めていく方もいるため、引き継ぎがうまくされないまま進んでいっているのかもしれない。

- (武副委員長) 社協は1世帯200円を出してほしいといっているが、こういうことをやっているのだからもっと出してほしいというような形になっていければよい。自治会からも、そんな少ないお金でできるのかと聞かれるようにならなければいけない。ただ何をやっているのか分からずお金を出すような仕組みになっているのはどうかと思う。仕組みを変えたい。これが推進協の役割だと思う。
- (大嶋委員長) 今後分科会の中で質問して、共有していただきたいと思う。他にあればどうぞ。
- (江口委員) 第2期に入っているが、第1期のときにうまくいかなかった。これは第1期計画を評価し、それを踏まえて第2期計画は改善されているのか。福祉を行うに当たり、市とか区に頼らないで、自治会、民生委員、地区部会が三位一体になっていかなければならない。これにはやはりお金がかかる。我々委員が、賛助会員を集める位の意気込みが必要である。それでなければ第2期も成功しない。活動したら必ず評価、改善、アクションをするPDCAをしっかりとやらなければ成功しない。
- (大嶋委員長) 地域福祉計画は立派なものである。しかし、どんな立派な計画ができて、印刷して終わりなのはいかがか。当時町内会長だったときに、そういう説明を受けたことは一回もない。連協会長会議で簡単に説明があってそのままになってしまった。2期の計画の内容は、ほとんど同じである。どのように周知徹底するかである。問題なのは、いかに地域に浸透させるのかが見落とされてきていたことが大きな反省点である。そのため、2期の計画は1期の計画の骨子は変えないで、計画をいかに地域にわかっていただけに尽きる。全国的に自助・共助・公助の関係がいられている。まずは自分たちで何とかしてみる。最後どうしてもなければ公助で。役所の努力が必要だと思う。いかがか。
- 武副委員長からあったように同じ様な活動を自治会、地区部会で進めようとするのは難しいところ。この後、各分科会に分かれて、討議していただければと思う。今後のスケジュールについてお願いしたい。
- (事務局) 今年度の活動スケジュールについて説明したい。推進協議会会議は年4回を予定している。開催日であるが、次回第2回は9月下旬か10月上旬。第3回は11月下旬から12月上旬。第4回最終回は2月下旬から3月上旬を予定している。臨時会が必要である時は開かせていただく。運営企画員会については、毎回会議前に1回、複数回開催させていただく。分科会については、この後各分科会に分かれて話していただければと思う。広報紙については、若葉区地域福祉計画推進協議会の福祉だよりを発行している。こちらでは、本会議や推進協の活動状況や地域で得られた情報等発信していくものとなっている。自治会分科会の広報・宣伝班が昨年より分科会でできたので事務局と広報宣伝班と一緒に編集を進めている。これについても今年度は3～4号を目標に発行する予定である。
- ここで行政からこの問題に取り組む方向性について区長からお話がある。
- (岩成区長) 皆様の意見をまとめると、1点目が自治会と社会福祉協議会地区部会のすみわけ、2点目は、自治会、地区部会、民生委員の連携の問題と、大きく分けて2つの問題がある。1点目に関し、若葉区は201の自治会がある。推進協の目標は、すべての自治会に高齢者を支える組織を結成したい。加曾利新和自治会江口自治会長が主

体となってやっただいて買物支援やふれあいサロンのような高齢者を支える組織をやっているところもあれば、武副委員長のところの様に地区部会が主体となって、自治会が参加するパターンがある。3つ目として若葉区は非常に広く、昔からの地縁というか顔なじみで、新たに支え合い組織を作らなくてもすでに組織ができていところもある。この3パターンが考えられるため、パターンごとに運営企画委員に議論していただきたい。2点目の自治会、地区部会、民生委員の連携に関してだが、お手元のカラーの若葉区役所からのお知らせをご覧いただきたい。昨年度、若葉区役所で24～33年度の10年間の区の基本計画を策定した。お知らせの右側、区の将来像の下側に施策展開の方向性とある。1番目、区民一人ひとりが担うまちづくり(1)さまざまな主体の連携強化とある。これは、自治会、地区部会、民生委員の皆様と協力・連携して活動していただかなければ、高齢化の問題に対応できない。若葉区ではこの(1)を最重要課題として様々な主体の連携強化を位置づけたものである。これからも区役所として高齢化の問題に力を入れていきたいと考えている。

次に若葉区からの情報発信システム「まちづくり支援システム」に関して説明していただく。

(飯田室長) 若葉区からの情報発信についてだが、この5月1日から地図上において各地域の現状の平成24年から平成42年まで5年単位で人口変遷、介護者の認定率、高齢化率等を地図上に出る仕組みができてい。また、一覧表も作成しており、若葉区105町丁別の人口変遷、介護者の認定率、高齢化率等も推計したものである。若葉区役所HPからリンクがある。地域づくりについてのアンケート集計について、これの見方については、202自治会から161の回答をいただいたものである。大きく分けて4つの質問をした。回答の1番は45の回答をいただいたが、これは高齢者の見守り・安否確認活動を45の町内自治会で実施しているということである。2番が防犯パトロールで82の町内自治会がやっっている。3番が学校セーフティーウォッチャー児童等の見守り活動は68の町内自治会がやっっている。このように見ていただきたい。今後の訪問活動については、質問の2の中に支え合い活動についての必要性について「すでに取り組んでい」、「現在計画中である」という設問があるが、この回答結果を基に先ほどお示した年度内50団体に訪問できるよう調整していきたい。

(大嶋委員長) まちづくり支援システムは千葉市6区のうち若葉区だけの取り組みである。本当は本日上映していただきたかったが、次回お願いしたい。今後このシステムを大いに活用したい。

《 9 その他 地区部会分科会 15時50分～16時25分 》

(事務局) 今年、地区部会分科会の運営企画委員には、昨年から引き続き武副委員長と新たに小倉地区部会の和田委員をお願いしたい。

(和田委員) 私は1年委員をやり、2年目に運営企画委員となった。正直、まだ分からない。先ほど話があった通り社協のあるべき姿は、皆と一緒に福祉を推進していくものであ

ると考えている。

(事務局) 今配布した資料にて武副委員長より説明していただきたい。

(武副委員長) 色々な問題がある中で、ようやく自治会、地区部会、社協など、地域福祉のあり方についてどのように取り組んでいくべきかが分かり始めてきた。もう少し、今年1年間皆で議論していきたいと思う。昨年1年間やった中で、社協の現場の人は一生懸命頑張っているのはとてもわかった。13地区部会のなかで何が問題なのか、地域福祉にどう取り組めばいいのか。自治会との連携のなかで、少し分かりかけたので今年は少し深みをつけたい。

昨年は、13地区を社協事務局が訪問し、課題を発掘した。現状はこうであるというのをまとめてもらった。各地区がどういう問題を抱えているかはわかった。

地区部会は大きく3つに分けられる。1,000所帯以上の大型地区部会である小倉、都賀、若松、大宮、結・みつわ台、それぞれ抱えている課題はまったく違う。中規模地区部会の桜木、加曾利、御成台・千城台西北、千城台東南・金親。比較的小規模自治会で構成され且つ農村地域住宅が多い地区部会として、貝塚、坂月、白井、更科。これらを合わせると13地区部会となる。取り組みをしようとしている地区をピックアップし、大型を1ヶ所、中規模1ヶ所、小規模1ヶ所を選定していきたい。大型地区部会は小倉地区部会、他はどうしてもいいのではなく、同じ様な課題がないか報告・発表・検討するのはどうか。中規模地区部会は、加曾利地区部会、次回の1番にやりたい。小規模地区部会は、白井地区部会を取り上げさせていただきたい。

具体的な進め方については、後ほど詳細について詰めさせていただく。今回は、加曾利で行われている活動を洗いざらい報告する。高齢者見守り・助け合いの進行状況、見守り・助け合いの現状がどうなっているか報告する。まとめは事務局にお願いしたい。事務局がよい点をまとめ、自治会と話し合っている。しかし、まったく反応がない自治会がある。加曾利地区部会の活動の進行状況と地区部会としてどのような考えでやっているかも当然発表する。発表するに当たって取り上げたところを中傷するのではなく、これはなぜそうなっているかの原因と対策を一緒に考えることを皆様の約束事としていきたい。

(事務局) 昨年、13地区部会の概要をまとめた。本来であれば、普通にやっていなければいけないことだった。今まで各担当の感覚や想いで地区部会を掴んでいた。昨年に各地区部会の健康診断が終了した。処方箋について皆さんと協議させていただき、もっと詳しく皆さんと考えていきたい。

(武副委員長) このような社協の活動は千葉市全体の区に広げてほしい。まだ手についただけで中身はまだザルなので、これからどんどん進めていくべきである。先進的に活動しているところを紹介しながら、地区部会の中身はこうあった方がいいなどそれぞれ感じ取れる形になってほしい。自治会でもまったく同じことがいえる。自治会にもこのような形になってほしい。我々は、晴山苑と連携して活動している。それについて詳しく説明したい。晴山苑とはかなり深い踏み込んだ関係である。

(横山副委員長) 当地区では施設から連携したいとの要望があり、どのようにしていったらよいかを

学んでいきたい。お年寄りの方がいて、自治会や地域でどう捉えているのか知りたいが、個人情報等で教えてもらえなく、結局民生委員の方に協力してもらおうしかない。そのため、具体的な取り組み方を知りたい。

(事務局) 晴山苑など地元の専門機関と連携すると専門家としてのアドバイスをいただけ、住民主体で進められる。民生委員など立場が違う方々とグループに分かれて話せば盛り上がる。課題の共有ができ、対応を考え実行、予防ができる。これが私の考える地区部会の考え方である。

(武副委員長) そういうものをまとめて発信していただきたい。

(横山副委員長) 皆よく考えている。そのため、自治会、地区部会、民生委員、日赤奉仕団などと話し合う場、連携が必要である。

(和田委員) 美浜とかからお手伝いをしたいなど、遠くから売り込みにきている。地域に密着した福祉はなかなか難しい。

(武副委員長) この前社協若葉区事務所で発行している「WAKABA 魂第2号」に掲載されていたが、他で活動しているサロン情報などの情報発信をどんどんしてほしい。普通では思いつかない違う発想で紹介してほしい。